shiseido art egg 17th

会期｜2024 年 3 月 12 日（火）– 4 月 14 日（日）
平日｜11：00 – 19：00　日・祝日｜11：00 – 18：00
毎週月曜休（月曜日が祝日にあたる場合も休館）
主催｜株式会社 資生堂
協力｜株式会社 IHI、王子エフテックス株式会社（野村 在展）

君の存在は消えない、だから大丈夫

- It’s OK, the fact you exist will never fade even though this universe will be gone -

野村 在
Zai Nomura

「shiseido art egg」は、資生堂が新進アーティストを応援する公募プログラムで、人びとの感性と多様な価値観を刺激し、新たな美の可能性を押し広げるアーティストに個展開催の機会を提供するものです。2006 年にスタートして以来、延べ 48 名（組）の入選アーティストが個展を開催、その後も活躍の幅を広げています。

第 2 期に展示する野村 在は、写真や彫刻を素地とした様々なメディウムを通して、生と死やその間に横たわるものを露わにすることを試みてきました。本展では、亡くなった人の写真を水に印刷する写真装置や、今後、数十年間において稼働し続けるパフォーマティブな作品を発表します。過去、現在、未来が交差し、アナログからデジタルへと変容する情報媒体を独自の視点で捉え、人間の本質や存在の在り方について問いかけます。

野村 在

1979 年　兵庫県生まれ
2009 年　ロンドン大学ゴールドスミス校　MFA 取得
2013 年　武蔵野美術大学造形研究博士後期課程造形芸術専攻作品制作研究領域修了
　　兵庫県在住

主な活動
2024 年「Can’t Remember | Forgot You ー 忘れたことすら、覚えていない」（トーキョーアーツアンドスペース本郷、東京）
2021 年「Echoes」（Ulterior Gallery、ニューヨーク）
2017 年「Can’t rewind it ー巻き戻せないー」（双ギャラリー、東京）

アーティスト HP：https://www.nomurazai.com/

SHISEIDO GALLERY

公式 HP　Instagram　X（旧 Twitter）

媒体の表層を一枚一枚剥ぎ取っていく。
記録の表層を一枚一枚剥ぎ取っていく。
それが指し示す『何か』の正体を露わにするために。

今からちょうど 100 年前に、私の祖父は東京で生まれた。

祖父には美しい妹がいたが、彼女は体が弱くその後に若くして亡くなってしまった。
祖父はそれがショックで戦地に赴いた。
1941 年のことだ。

戦争が終わり日本に戻った祖父は、愛する婚約者までいなくなってしまったことを知る。
代わりに彼の家には知らない女性が待っていた、それが私の祖母だ。

それらの話は祖父の死後に出てきた彼の手記から分かったこと。
そしてその手記とともに出てきた、一枚の写真によって。

若い学生服姿の祖父と、白いドレスの愛らしい彼の妹の写真。
その妹は、その写真を撮影した数日後に亡くなってしまった。

私はずっとその写真を持っていた。
そしてよく考えた。
もしこの美しい少女が死ななければ、
私は今存在していないんじゃないか、と
この写真が、これこそが私の存在証明なのか、と。

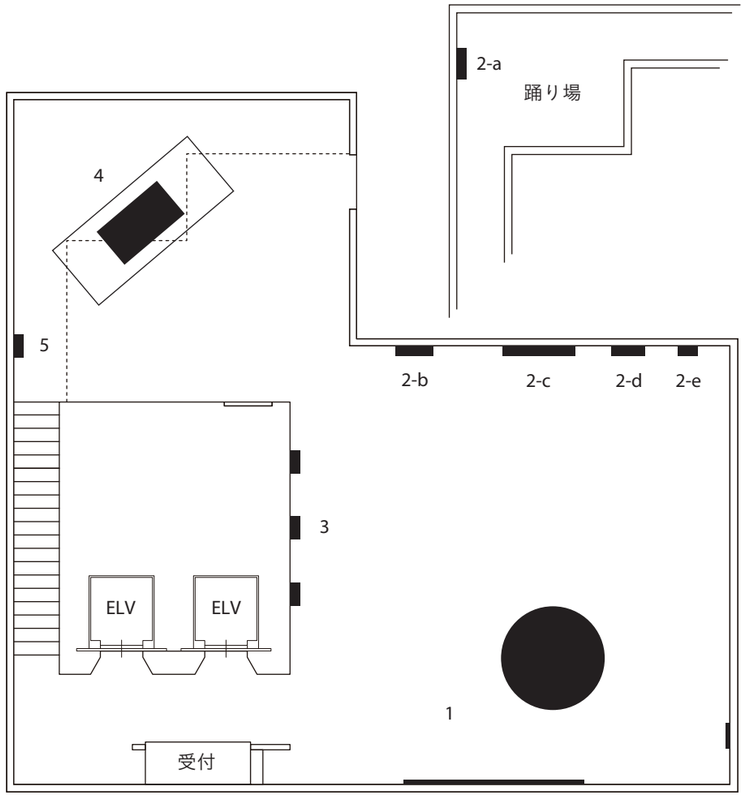
80 年以上保管されてきたその写真を、そうして私は燃やした。
その炎の光を撮影した。
現像されたネガを見た時、失った辛さよりも、肉体からも紙からも解放されたその光の塊に、
私は圧倒された。
消えてしまった彼らの写真は、むしろ私の目の奥に焼き付いて、しかも私の存在は消えていなかった。
これでいい、と思った。

そうやって消えていった人たちを光に戻していった
届かなかった手紙も影になってここにあり
毎日の愛おしい思い出は、白く薄くなっていく。

でも、これでいい。

君が消えて、それを覚えている僕も消えて、100 年後にはそのことを覚えている人すらいなくなっても、
君の存在は決して消えない、だから大丈夫。

フロアマップ



1

Untitled (君の存在は消えない、だから大丈夫)

DNA データ、穿孔テープ打刻器、マイクロコンピューター、紙、プロジェクター、2024

この作品は、天井に吊るされた穿孔テープ打刻器によって、一人の人間の DNA 全データを紙テープに打刻し続けます。穿孔テープと打刻器は『紙と穴』によって情報を記録する、人類史にとってアナログとしての最後の通信手段 / 外付けのハードディスクでした。一人の人間の DNA データを穿孔テープを用いて打刻すると、全長 12,000,000m となり、それは地球の約 1/3 周ほどの長さになります。(24 時間打刻し続けて 91 年と 172 日の年数がかかります。)
心拍のリズムに即して打刻し続けたDNAのテープのパーセンテージが、プロジェクターと連動し壁に投影されています。

2

バイオフォトンはかくも輝く

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージのポートレート写真、アクリルボックス、2024

この作品は、アーティストが過去 120 年間 (1903 年〜2023 年) の間に撮影された世界中のポートレート写真 (自身の家族 / 祖先も含む) を収集し、それらを暗室で一枚ずつ燃やし、その炎の光を長時間露光により撮影したものです。
それらの現像されたフィルムは、UV–ピグメント印刷という、紫外線によって硬化する印刷技法によって、ガラスに定着されています。

2-a

バイオフォトンはかくも輝く
(セーラー服を着てヨットの模型を持つ少年、1919)

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージポートレート写真、アクリルボックス、2024

2-b

バイオフォトンはかくも輝く
(左うえを見る美しい赤ん坊、手にはハーモニカ、1925)

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージポートレート写真、2024

2-c

バイオフォトンはかくも輝く
(満面の笑顔の客船のキャプテン・トム、1999)

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージポートレート写真、アクリルボックス、2024

2-d

バイオフォトンはかくも輝く
(黄色の海水パンツを履いてサングラスをした 40 代男性と白色のビキニを着た同年代の女性。50 人以上で賑わう NY のビーチで二人でポーズ、1980)

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージポートレート写真、アクリルボックス、2024

2-e

バイオフォトンはかくも輝く
(オールバックでチェックのシャツを着たメガネの日本人男性　ビーグル犬と青いソファーに座って笑顔、2001)

ガラス、UV-ピグメント印刷、燃やされたビンテージポートレート写真、アクリルボックス、2024

3

ギフト

誰にも読まれなかった手紙、ガラス玉、ガラス、ステンレス、2024

4

ファントーム

水槽、水、インクジェットプリンター、LED 有機モニター、オゾン発生装置、マイクロコンピューター、インターネットクラウド、2024

ファントーム（*Fantôme*）は、亡くなった方々の写真を水に印刷する装置です。
外部ウェブサイトより世界中の誰でも参加できます。
参加される方は、QR コードからサイトに移動してください。
※参加するためにはあらかじめ Google アカウントが必要です。
※動物などペットの写真も受け付けています。

5

寒椿

ボラロイドフィルム、紫外線ライト、ケーブル、2024

凡例
作品情報は作品名、素材名、制作年の順に記載した。